

第17回受賞事例集(2015年)



写真提供 北日本新聞社

●人とひとがつながり、 生き活きとした、支え合う仏生寺 仏生寺地域づくり協議会(氷見市)

地域コミュニティの拠点であった旧仏生寺小学校が廃校となり、少子高齢化が憂慮される中、地域コミュニティを大切に、福祉・健康事業の充実や災害時の助け合いなどが重要になってくるとの思いから、平成25年7月に氷見市の第1号の「地域づくり協議会」として設立しました。

これまで、高齢者の買物支援として「ハトムギワゴン」を毎月2回運行しているほか、生活に必要な情報を大きな字と写真でまとめた「生活便利帳」を作成し、支え合う福祉の充実に取り組んでいます。また、年齢や性別関係なく楽しめるスポーツ「カローリング」を通して住民の世代間交流や健康づくりに努めています。

今後は、「仏生寺地域づくり計画」に基づき防災・減災活動に取り組み、安心して暮らせる地域づくりを推進して「人とひとがつながり、生き活きとした、支え合う仏生寺」を目指します。

施設等の部門



●ユニバーサルデザインとおもてなしの文化で 全ての人に喜んでもらえる店舗づくり 川金いろり茶屋 鮎の庄(砺波市)

「鮎の庄」は、庄川温泉郷の老舗旅館川金の別館料理茶屋です。この場所には以前から古民家を再生した鮎専門店がありましたが老朽化が著しく建て替えることになりました。建て替えにあたっては、人気のあった古民家風いろり茶屋のイメージを継承しながら、お年寄りも一緒に家族連れや、身体に障がいのある方など様々なお客さまに快適な環境で安心して楽しんでいただける店舗づくりをコンセプトにしました。駐車場から段差がなく客席までご案内できるフラットな動線や長時間座っても疲れない椅子テーブル席の充実、また車いすからの移乗が楽な小上がり席の工夫、そして多目的便所にはオストメイトも設置しました。このような建築的配慮をした上で、更に旅館業で培った質の高いサービスを提供し、どなたにも喜んでもらえる店舗づくりを目指しています。

●看護小規模多機能型居宅介護ゲートは、 高齢者を医療と介護の両面から支えます ゲート(富山市)

看護小規模多機能型居宅介護ゲートは、最後の時を迎えるまで自宅や地域で過ごしたい、という方を医療と介護の両面から支える、富山県で初めての事業所です。通い・泊り・訪問看護と訪問介護を自由に組み合わせ、状態によっては萩野医院との連携で訪問診療や往診を行います。事業所は全室個室で、看取りの時などはご家族が付き添えるよう、居室とは別に和室もあります。また入浴はチェアインバスを採用、介護度の高い利用者も快適に入浴を楽しめるようになっています。リビングやダイニングは広々として気持ちよく、職員も見守りしやすくなっています。

ゲートでは、四季折々の行事、春にはお花見、夏には流しそうめんや花火、秋には紅葉狩り、冬は節分など、様々な行事を利用者と職員が協力して行い、「ゆつくり・楽しく・和やかに」交流を深めています。

第18回受賞事例集(2016年)



施設等の部門

大賞



●明るく温もりのある空間で健康寿命を延ばす ロコモ予防 貯筋デイ かがやき(富山市)

ロコモ予防 貯筋デイ かがやきは、障害のために移動機能が低下した状態(ロコモティブシンドローム 略称:ロコモ・和名:運動器症候群)になることを予防し、健康寿命を延ばすことを目的とした機能訓練型デイサービスです。

施設は柱などに木材が多用され、室内には天窓があり、木のぬくもりの中に自然の光が差し込み、あたたかい雰囲気を感じられます。

浴室は、大型ジェットバス付きの大浴場があり、そこからは園庭を眺めることもでき、機械浴ができる1人用の浴室もあります。

活動や取り組み部門

賞



●食品の「もったいない」から地域をつなぐ 特定非営利活動法人フードバンクとやま(富山市)

フードバンクとやまは、食べ物を大切にする気持ちを忘れ、大量の食品が廃棄されている現状に、「もったいない」と強く思い、理事長の川口さんが、2009年に立ち上げた団体です。

富山県内の企業や団体から、賞味期限の迫った食品や、大量に生産された野菜等の提供を受け、小規模の福祉施設や、生活困窮者を支援する団体に配分しています。

今後の課題として、協力者・理解者を増やし、会の運営を継続的にに行い、1人でも多くの方に「食品ロス」について考えていただければ、と思っています。

賞



●高齢者サロン活動から地域を共に考える さん*さん まえざわ(黒部市)

これからの地域づくりやあり方を地域住民に考えてもらうことを目的に活動を開始しました。町内の公民館を活用し、歩いて通える高齢者サロンを中心に、その活動に地域の方が様々なかたちで参加し、その活動から「気づき」や「振り返り」を繰り返し、そこから共に学んでほしいと考えました。

活動して日は浅いが、毎週1回の参加によりサロンに通う高齢者からは「生活の張り」や「心身の改善」が見て取れ、地域からの理解や協力も徐々に進んできています。

今後は、公民館を中心に「よろず相談」や地域固有のニーズに合わせたボランティアセンターとしての発展が期待できます。

やさしい福祉のまちづくり賞 受賞事例集

・ダイジェスト版・



2013-2016

この事業に関するお問い合わせは



富山県民福祉推進会議

事務局 社会福祉法人 富山県社会福祉協議会 地域福祉部地域福祉・ボランティア振興課 内
〒930-0094 富山市安住町5番21号 富山県総合福祉会館3階 TEL(076)432-2960 FAX(076)432-6124



富山県民福祉推進会議



第15回受賞事例集 (2013年)

● その他(施設等)の部門 ●



● 高齢者も、赤ちゃんも、だれもがみんな、快適に安心して利用できるように 立山町元気交流ステーション「みらいび」(立山町)

町健康福祉課・保健センター、町社会福祉協議会など保健福祉機能を集約し、町図書館や交流センターなどの公共施設と地鉄五百石駅が一体となった複合施設。だれもが利用しやすいよう、点字床タイルや緩やかな勾配の階段、インターホン付き点字案内板や音声誘導装置・オストメイトを備えた多目的トイレ、腰掛けエレベーターなど、ハード面のバリアフリー化に配慮。同時に、幅広い世代が一つの空間を共有し交流する「心のバリアフリー」を大きなテーマとしています。窓口を訪れた障がい者が元気な子どもに出会ったり、勉強している学生と同じ部屋で高齢者がくつろいだり、遊んでいる小学生の隣で子育て中の母親が談笑したり…みらいびに来れば、だれもがみんな、すてきな笑顔になりますよ!



● 地域住民が気軽に集えるたまり場 サロン梅の湯運営協議会(富山市)

長年住民に親しまれてきた銭湯の廃業後、社会福祉法人が活用し、おもにひとり暮らし高齢者を対象に富山市委託事業「生きがい対応型デイサービス」の運営をしてきました。しかし、利用基準の厳格化等、さまざまな理由によって法人は事業を辞めてしまいます。取り残された銭湯、ひとつの行き場を失った高齢者。「これでは地域の“笑顔”が減ってしまう」と、何回も話し合いを重ねたのち、平成23年6月、様々な団体で運営協議会を設立し、日中ひとりにする高齢者なども気軽に集える場所をつくりました。住み慣れた地域で住民が元気に暮らせるよう、いろんな人たちが日々寄り添い、活動は継続しています。活気を取り戻した銭湯からは、ほら、笑い声が聞こえてきませんか?

● 活動や取り組み部門 ●



● 障がい者を中心として誰もが住みやすいまちづくりを 特定非営利活動法人工房あおの丘(入善町)

障害福祉サービスや委託事業、自主事業など、多数の事業を展開していますが、施設内や福祉施設間のための取り組みで終わらせず、積極的な働きかけにより、地域や他団体との協力による開かれた事業を実施しています。今では、自主イベントを開催すると、地域内外の各種団体や一般の方々など、たくさんの協力者が集まるまでとなりました。加えて入善町6次産業推進協議会の団体加入により、一般企業の障がい者理解が深まりつつあり、施設の出入りも増えています。広く地域の方々との関わりを持つことは、利用者にも大きな刺激となり、地域みんなで助け合いながら笑顔あふれる毎日を過ごしています!



● 心の病になったって人を元気にすることはできるはず! 立山WAいいちゃ一座(立山町)

平成17年より精神障害を持つ座長清水崇宏と妻利恵の二人で「夫婦チンドン」として活動をスタート。現在では、デイサービス「いい茶家」のスタッフや利用者、障がい者も仲間に加わり、障がい者が中心となって「立山WAいいちゃ一座」として活動の幅を広げています。チンドンを通して笑顔を届け、障がいへの偏見や誤解をなくし、理解を促す活動は、地域の方々にも受け入れられています。おかげさまでお客さまの笑顔で元気づけられ、自分たちも生きていく自信を取り戻すことができました。[トザイトーザイ!]たちまち笑顔と拍手が溢れます!



第16回受賞事例集 (2014年)

● 活動や取り組み部門 ●



● 点訳活動により、視覚障がい者の情報取得をサポート アイサポートKirara(富山市)

平成15年活動開始。点訳によって視覚障がい者と聾眼者が同じ情報を共有したり視覚障がい者にとって情報の選択肢が増えるようサポートを行うことを目的としています。点訳はパソコンで行い、サピエ図書館(全国で点訳・音訳されたデータ等を保有し種々の情報を提供するネットワークシステム)に登録。それにより、全国の視覚障がい者個人・点字図書館等が各々に合った方法でデータを利用でき、点字使用者の利便性を高めています。また、プライベートな点訳依頼にも柔軟に対応して、市の広報やゴミ分別早見表、仕事や趣味・家事に関するものなど日常生活に協力しています。よりよい点訳を目指して技術を身につけ高めていくよう常に勉強中です。



● 日頃のスポーツ活動を支援し知的障害者の社会参加を促す スペシャルオリンピックス日本・富山(富山市)

富山県内では平成17年に正式に発足し、知的障害のある人たちへの継続的なスポーツの提供と併せて彼らの自立と社会参加を促すよう活動しています。競技会では、最も優れた記録を出した一人のアスリートを選ぶのではなく、参加した全てのアスリートが表彰台に上られるようにルールが工夫されています。アスリートは競技前に宣誓し、「たとえ勝てなくても頑張る勇気を与えて下さい」と結びます。そして富山が全国的に誇る活動として、競技会の前に必ず行うトーチラン(聖火リレー)があります。富山で当初、50人程度でスタートした活動が今では多くのボランティアに支えられ、会員数が800人を超えました。私たちは今後もトーチランで多くの市民に私たちを知っていただくことで、更に知的障害のある人たちの活動の輪が広がることを目指しています。

● 施設等の部門 ●



● 軒下で生まれる交流!地域にやさしい活動拠点をめざして 横山区公民館(入善町)

広場をL字型に囲う、ゆったりとした軒下と、その軒下に誰もが気軽に利用できる「ふれあいコーナー」を設けました。ゆったりとした軒下は、雨や雪の日でも快適な動線利用ができるとともに、集会場や和室がこの軒下を介して広場と接しており、祭りやイベントでは、内外を一体的に利用することができます。この内と外を緩やかにつなぐ軒下に設けた「ふれあいコーナー」は、移動販売の販売場、バス・タクシーの待合乗降場といったさまざまな用途や、子どもから高齢者までが井戸端のように集う、ふれあいの場として利用されています。さらに、スロープや多目的トイレなどのバリアフリーへの配慮と小規模な地区公民館でも安心して避難できる耐震性や断熱性に配慮したハード整備も同時に行い、地域にやさしい交流と活動の拠点をめざしています。



● 高齢者も障がい者も一つ屋根の下で共に生きる喜びを 花みずき式番館(富山市)

平成21年4月、住宅型の有料老人ホームに、富山型デイサービスと障がい者のグループホームを併設した「花みずき式番館」。ゾーン分けをしない施設内では、職員がサポートしながら高齢者と障がい者の皆様が協力し合う光景があります。一緒に編み物をなさったり、障がい者の方が取り組まれた計算ドリルを、高齢者の方が採点し間違いを教える場面も。グループホームに設置したミニ文庫から本を選び、ソファに座って読書をする高齢者の方もいらっしゃいます。一つ屋根の下で、様々な活動やイベントへの参加の機会を通して、寄り添いあい共生できるよう工夫しています。また、バリアフリーのウッドデッキでは運動会などの行事のほか、お茶会やビュッフェランチを開催し、式番館のご利用者様だけでなく近隣の地域の皆様をお招きし交流を図っています。



第17回受賞事例集 (2015年)

● 活動や取り組み部門 ●



● 立野ヶ原台地(なんと市)で「エルハート城端農場」奮闘中! 福祉作業所 エルハート城端 立野原分場(南砺市)

2年の準備期間を経て、平成25年度から農業へ本格参入しました。農地の減棄を図り、有機認証をめざして、根菜類(サツマイモ、里芋、玉ねぎ等)、葉物類(白菜、ホウレンソウ等)の栽培をしています。規格外の作物もお菓子等に加工するなど、消費者のニーズを聞きながら、顔の見える関係を大切に活動し心掛けています。利用者については、農場での作業を組み合わせることにより活躍できる範囲が広がりました。このことが利用者の大きな励みになっています。また、地域とのつながりを大切に、地域住民の方に農業アドバイザーとして協力いただいたり、年1回、近隣の農家や協力者、利用者の家族を招待して、収穫祭を開催しています。そのほかにも、近隣住民を交え、収穫した野菜を使った料理教室を2ヶ月毎に開催するなど、地域住民との交流を積極的に行っています。現在は、「過疎の地域ににぎわいをもたらすお手伝いをする」、「耕作放棄地の保全管理」を信念に活動に励んでいます。



● 障がい児者支援を通じて、 誰もが安心して暮らせる地域づくり 特定非営利活動法人くるみ(高岡市)

くるみは、障がいのある子どもたちの生活スキルや社会性を育むための「放課後等デイサービス」、家庭生活を支援する「居宅介護」、障がいのある子どもや大人の社会参加と自立を支援する「行動援護」などを行っています。毎日、子どもたちの笑顔と元気な声、そして外出支援や家事支援のヘルパーが出入りし、とても賑やかです。希望に応じて、宿泊体験や相談カフェ、お母さんたちの勉強会などいろいろな企画も行っています。目的は「支援の必要な人が、経験と出会いの中で成長し、生きがいを持ち、一人の市民として尊厳を守られ、最後まで安心して暮らし続けられるまちづくり」。今後も、子どもたち一人ひとりの成長に寄り添いニーズに応えることで、誰もがその人らしく輝いて生きていける地域づくりを行っていきます!